

## 熱があっても慌てないで

夏かぜのシーズンとなりました。夏かぜは、夜間に、急に高熱が出るために、親を慌てさせます。熱があるということは、通常何らかのウイルスによる感染である可能性が高く、たいていの発熱は、子どもたちにとって好ましいもので、身体が感染と闘うのに役立っているのです。

腋下温（腋の下で測った体温）で38℃以上が病的な熱で、39℃以上を高熱と呼んでいます。熱が高いだけで子どもの脳に障害を与えることはありません。熱が高くても、39℃以下で、ほかに咳や下痢・嘔吐などの症状がなく、元気で、機嫌がよければ、慌ててかかりつけ医に行くことはありません。夜間で心配なら、まず、電話相談#8000で相談されることをお勧めします。

蒸し暑い夜には、赤ちゃんは睡眠中に大量に発汗し、脱水状態となるため、明け方には39℃近くまで体温が上昇することがあります。朝、お乳を飲ませると、あっという間に平熱に戻ります。これを夏季熱と呼んでいます。夏の発熱には、水分を補給するだけで、体温が低下するのはよく見られる現象です。

### ◆ 兵庫県小児救急医療電話相談#8000 ◆

(市外局番が 06・072 以外のプッシュホン回線の方) #8000

(市外局番が 06・072、ダイヤル回線、携帯電話、IP 電話の方) (078)-731-8899